

1 検査部

連絡先：075 751 3502（部長室）
075 751 3480（検査部）

診療部の特徴

- 1) 先進医療のサポート
 - ・検査の迅速報告と業務の効率化、低コスト化
- 2) 感染症診療の情報源
 - ・感染制御部との密な連携
- 3) 生体検査の充実
 - ・超音波検査センターおよび生理検査の拡充
- 4) 遺伝子細胞検査
 - ・移植医療への貢献



沿革と業務体制

臨床検査業務を行う検査部は中央診療施設の主要部門として、当大学病院が果たす地域医療機関としての役割、最先端高度医療の推進および教育機関としての責務に貢献できる体制を整えている。診療、研修および研究の支援部門として迅速で質の高い臨床検査を診療側へ提供している。

業務内容の特徴と実績

1) 今年度の取り組み

平成19年度の全検査件数は約610万件であり、平成18年度比で0.8%の微増であった。これは全診療科の協力を得ながら実施したセット検査の見直しにより、不要な検査オーダーが削減されたためと考えられ、セット検査見直しの効果が確認された。

平成19年度はバーチャル超音波検査センターが稼働し、消化器内科および放射線部医師と共同して新たに腹部および頸部超音波検査を開始した。センター稼働に伴い、超音波検査件数（臓器別件数）が1日当たり25.2人から38.8人（154%）に増加している。

外来中央採血室の採血管準備システムが更新され、併せて採血室の改装が行われた。患者受付間口が広がり最大5人体制で患者受付が可能になった。採血台が10台に増強されたことに伴い、検査部から採血要員として1名追加配置を行っている。外来中央採血室の患

者数は年々増加を続けているが、採血待ち時間の短縮（約40分から20分未満に短縮）と採血患者増加への対応を可能とした

平成19年6月から検査部広報誌「ラボニュース」を創刊し、年度中に3回発行を行った。各診療科外来・病棟等に掲示していただいております。新規検査や検体採取時の注意点などについて広報を行った。

病院機能評価受審の機会を捉えて、安全管理マニュアル、機器保守管理マニュアルおよび検査室単位での業務日報等を再整備した。業務安全管理と臨床検査精度保証の徹底に即ちその充実が図られた。

2) システム検査部門

システム部門は、検査業務の効率化、迅速化、省力化、低コスト化を実現する自動化検査部門である。外来至急検査は採血から報告まで血液検査で30分、化学系検査で1時間前後、腫瘍マーカーや内分泌系検査の大部分を即日報告するなど迅速で高精度な成績を臨床に提供しており、外来診察前検査や検査後再診察が可能となっている。本年度は尿検査処理装置や尿化学検査装置などの更新、異常データの迅速な病院情報システムへの反映などの改善が行われ、夜間休日の緊急検査項目に白血球分類等を追加して診療利便性の向上に寄与している。



部門・尿検査室システム

採血室業務は検査部全体で取り組んでいるが、スタッフの多くはシステム部門所属であり、本年度から採血室の早朝立ち上げを開始するなど患者サービスの改善に機動的に取り組んでいる。

3) 遺伝子細胞部門

遺伝子細胞検査部門は、ウイルス感染症、免疫不全症、造血器悪性腫瘍などにおける検査を行っている。また、血液腫瘍内科と連携した樹状細胞による急性骨髄性白血病に対する細胞免疫療法や他大学と連携したサイトメガロウイルス・EBウイルス検査標準化法の確立など、院内外の先進医療を支援している。

4) 微生物検査部門

当部門は、感染症診療の情報発信源として感染制御部との密な連携を通して、臨床現場で役立つ情報を提供して感染症診療に貢献している。結核感染の診断法であるQuantiFERON TB-2Gについて複数の診療科と共同研究を行い早期診断法として改良に取り組

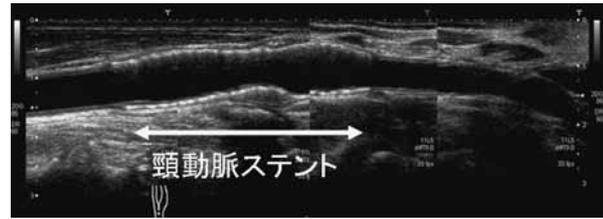
んでいる。また、地域医療支援活動として京都府下の病院・診療所に対して院内感染対策チームの一員として感染制御認定臨床微生物検査技師（ICMT）派遣を行っている。

5) 生理機能検査部門

生理機能検査部門は、種々の診断機器を用いて臨床診断に必要な情報を患者から直接検査する部門であり、主な検査項目としては、脳波、筋電図、誘発電位、神経伝導速度測定など脳・神経・筋系の検査を行っている。また呼吸機能、心電図、ホルター心電図、トレッドミル運動負荷心電図、心音・心機図、心臓超音波・血管超音波など呼吸・循環器系の検査を行っており、大血管や腎動脈、四肢の動脈および静脈の評価にも取り組んでいる。また消化器内科と連携し、尿素呼吸気試験も担当している。当部門の特徴としては、脳死判定を含めた病棟への出張脳波検査（ABRを含む）が挙げられる。

平成20年3月には診療支援高度生理検査総合システムが稼働し、バーチャル超音波検査センターも稼働を開始した。外来棟地下1階の放射線部超音波検査と外来棟2階の消化器内科超音波検査が統合されて第2超音波検査室として運用を開始した。併せて、検査部の超音波検査室を1ベッド拡張するとともに、第二超音波検査室と情報システムを共用する第1超音波検査室となった。両検査室は超音波検査センターとして電子カルテ上での統合運用を開始しており、院内外を問わず、超音波検査の見学・研修を行いつつ、院内全体の

超音波検査ニーズの対応を行っている。



高度医療等への貢献

当部はチーム医療へ積極的に取り組んでいる。入院患者の糖尿病教室における検査指導、NSTへの参加および病棟での採痰指導を行い患者・診療側双方から好評を得ている。また、超音波検査をテーマとした院内講演会を実施するなど、診療科・各部門と連携した臨床検査サービスの提供を続けている。

検査部は中央診療施設として各診療科における先進的医療を支える立場にあるが、検査項目によってはそれ自体が先進的内容であるものもある。EBウイルスやサイトメガロウイルスの定量検査は、移植医療において欠かせないものとなっている。

今後、超音波検査センター機能の拡充、光トポグラフィ検査の開始などを通じて、幅広い検査領域から高度医療を積極的にサポートしていくものである。

平成19年度検査部検査実施件数

(件)

検査項目	外来	入院	合計
一般検査	113,822	46,659	160,481
血液学的検査	423,557	325,340	748,897
生化学的検査	2,486,941	1,615,675	4,102,616
内分泌学的検査	119,819	40,822	160,641
免疫学的検査	213,701	124,115	337,816
微生物学的検査	15,351	60,661	76,012
病理学的検査	17,162	12,949	30,111
その他の検体検査	4,551	2,865	7,416
検体検査 小計	3,391,253	2,227,993	5,619,246
(時間外・緊急検査)	(46,348)	(271,186)	(317,534)
循環器機能検査	15,820	6,785	22,605
脳・神経機能検査	2,235	1,069	3,304
呼吸機能検査	8,094	4,788	14,042
超音波検査	8,334	5,204	13,538
その他の生理検査	432	262	694
生理機能 小計	34,915	18,108	53,023
採血・採液等	131,093	0	131,093
合計	3,603,609	2,517,287	6,120,896